

① プラ回収・再商品化の推進

<事例紹介 4>

「サーキュラーエコノミーへの取組が加速
自動車向け再生プラスチック安定供給体制」

株式会社近江物産

代表取締役会長 芝原 茂樹

2026年9月8日

令和8年度近畿地方資源循環自治体フォーラム



株式会社 近江物産

1



本日の内容

1. 近江物産の会社説明
2. 自動車向け再生プラスチックの国内外の動き
3. 自動車向け再生プラスチック安定供給体制の構築
4. 一般廃棄物からの資源化 『X to Car への取組』

2

本日の内容

1. 近江物産の会社説明

3

会社概要

会 社 名	株式会社 近江物産
代 表 者	代表取締役会長 芝原 茂樹 代表取締役社長 芝原 誠二
設 立	1977年9月
資 本 金	4,000万円
取 引 銀 行	滋賀銀行 商工中金
事 業 内 容	再生プラスチック原料製造・販売
許 可 ・ 認 証	● 滋賀県産業廃棄物処分許可証 ● 産業廃棄物収集運搬業許可証 滋賀県 / 兵庫県 / 大阪府 / 京都府 / 和歌山県 / 岡山県 福井県 / 石川県 / 富山県 / 愛知県 / 奈良県 / 静岡県 ● ISO14001認証 JQA-EM1918 (本社) ISO9001認証 JCQA-1887 (本社) ● SPC認証 JCQA-SP-0001
従 業 員 数	本社工場 44名 (内 パート従業員1名) 福島工場 8名 (内 パート従業員1名) ※2026年1月1日時点
事 業 所	■ 本社工場 (滋賀県栗東市) ■ 福島工場 (福島県いわき市) ■ 岐阜工場 神岡再生プラスチック販売組合(岐阜県飛騨市) ■ 関東営業所 (埼玉県さいたま市)
主 な 取 引 先 (社名50音順)	出光リテール販売株式会社 住友商事ケミカル株式会社 日本ブラレット株式会社 伊藤忠プラスチック株式会社 積水樹脂株式会社 パナソニック株式会社 稲畑産業株式会社 ダイハツ工業株式会社 三菱商事プラスチック株式会社 神岡鉱業株式会社 TOTO株式会社 DICプラスチック株式会社



敷地面積：11,897平米

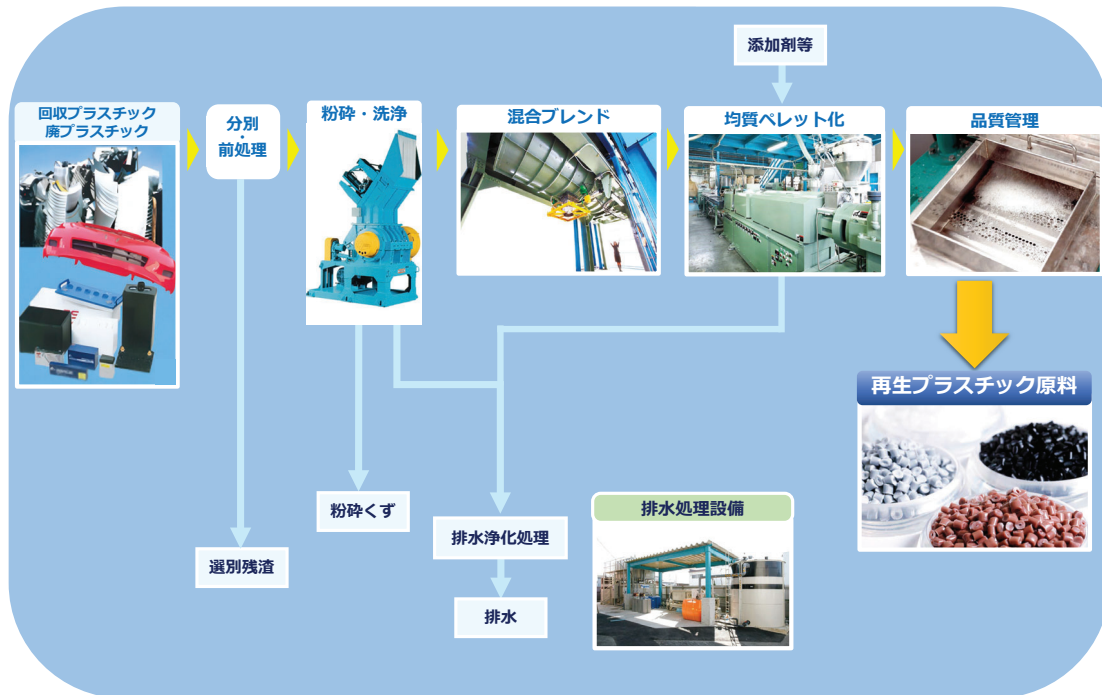


敷地面積：4,929平米

他多数

4

近江物産のプラスチックリサイクルフロー



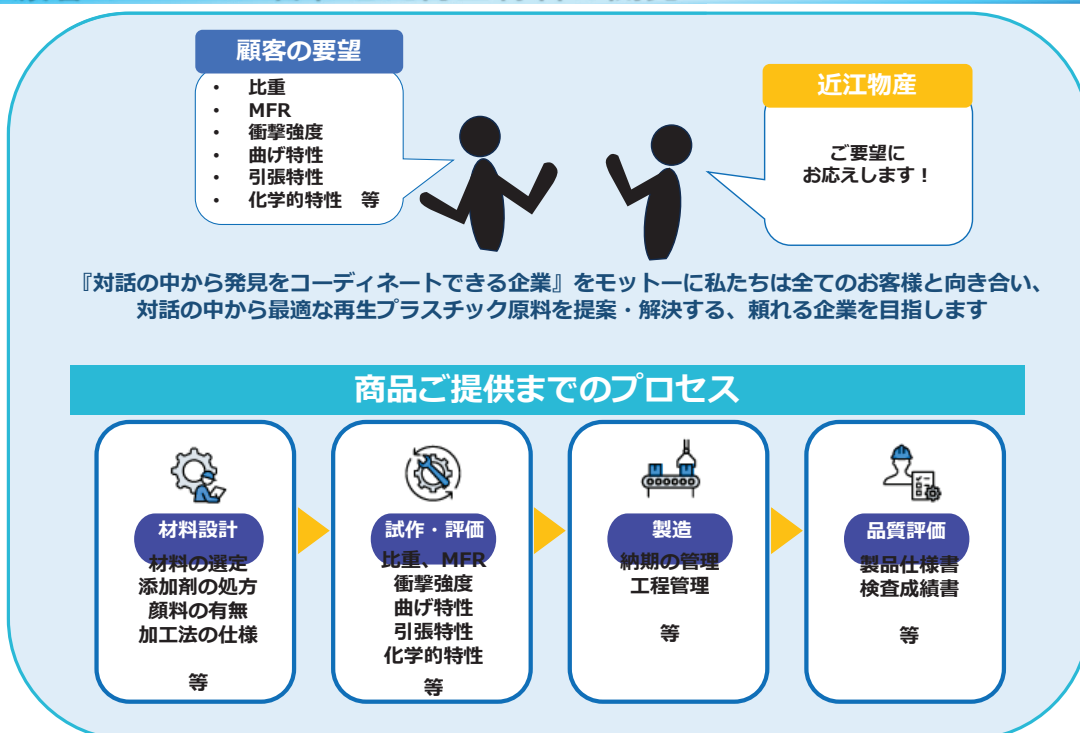
5

リサイクル処理フローと品質



6

顧客のニーズに合わせた再生材料の開発



7

高品位再生材料への生産対応

2軸押出・造粒設備を導入することで、従来よりさらに高品質の再生プラスチック材料の提供を実現

8種混合機付き2軸押出ライン

各種材料 混合・計量装置

各種スクリーエレメント

例えば 高い安全性・信頼性が問われる
自動車用部材
 アンダーカバー、ライトカバー
 バッテリーケース など

高品位の再生プラスチックは、バージン材を使用する場合と比べ、CO₂排出量を大幅に削減でき、代替が進んでいます

設計材料の適正配合と高精度混練で高品位化

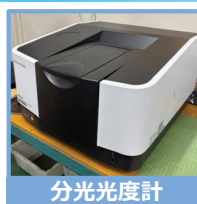
内部のスクリー形状を変化させることで製品によって混練効果での製品安定性・添加剤効果の向上が図れます

8

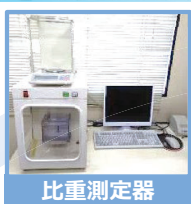
「安心・安全」の見える化でよりよい品質の追求へ

高品質を支える機器

近江物産は材料研究室を開設し、充実した環境で日々研究に取り組んでいます
研究結果を品質安定化のために反映し、工程管理や品質チェック体制の強化に役立てています



分光光度計



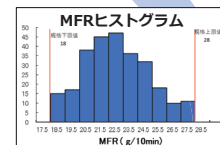
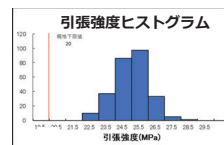
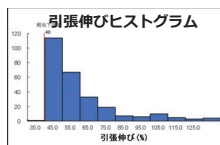
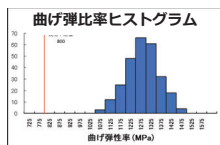
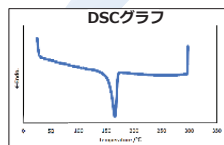
比重測定器



射出成形機



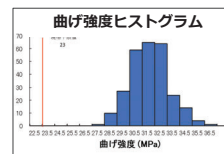
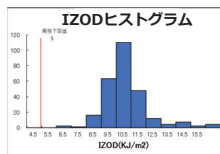
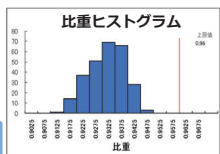
万能試験機



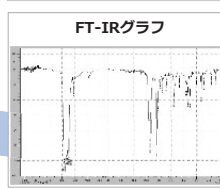
メルトフローインデクサー



ロックウェル硬度試験機



熱分析装置



FT-IRグラフ



アイソット衝撃試験機



蛍光X線分析装置



荷重たわみ温度試験機



低温槽付衝撃試験機

リサイクル材の仕様事例

幅広い分野のユーザー様に採用されています

本来素材が持つ機能をリサイクルによって品質を落とさず、「同等の価値」で再び社会に還元する・・・
この姿が私たち近江物産が、「材料メーカー」として目指す「価値あるリサイクル」です



自動車アンダーカバー・ライセンスホルダー
ステップ (内装材) など



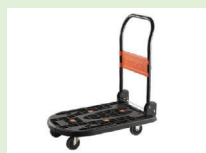
コンテナ



自動車内装部品
(シューズアンダートレイ)



バッテリーケースの
トップ



台車



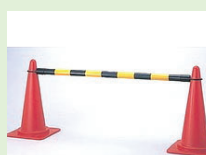
再生パレット



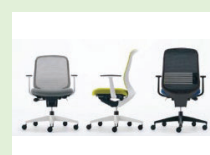
トイレタンク内の
プラスチック類



シート・フィルム等



工事現場のポール棒



事務用品
(椅子の取手、椅子のキャスター)

2. 自動車向け再生プラスチック 国内外の動き

11

サーキュラーエコノミーに関わる国内外の動き

- サーキュラーエコノミーに向けた取り組みが加速、再生プラスチックへの需要拡大が見込まれる

欧州の動き

ELV規則案の再生プラスチック使用義務の主な修正内容

主な修正案	2023年7月 欧州委員会案	2025年1月 欧州議会案	2025年6月 EU理事会案	2025年9月 欧州議会案	2025年12月 欧州 ELV規則案 暫定合意内容
プラスチック全体の 再生材使用割合	25% 開始時期：2031年	20% 開始時期：2029年	施行後6年以内 15% 8年以内 20% 10年以内 25%	施行後6年以内 15% 8年以内 20%	施行6年後 15% 10年後 25%
再生材の内ELV 由来使用割合	再生材の内25%	再生材の内15%	再生材の内25%	再生材の内15%	施行6年後 3% 10年後 5%
再生材の定義	PCR	PCR、PIR バイオマス	PCR	PCR、PIR (PIRは目標値の 最大50%まで使用 可能)廃車からの部 品もカウント	使用済製品由来の材料 (PCR材)
その他			デジタル車両パス ポートの導入、車 両の素材、有害物 質、再生材使用率 等を記録、エコデ ザイン規則等との 統合を図る		

欧州の立法手続き 欧州委員会が法案提出⇒欧州議会・EU理事会で法案を審議・採択⇒欧州委員会・欧州議会・EU理事会の3者合意で成立

産官学コンソーシアムの目指す姿



- 「自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム」の取組を通じて、**質・量両面からのアプローチにより高品質な再生プラスチックの流通量拡大を進めるとともに、再生プラスチックの価値訴求を通じて、再生プラスチック市場の構築を進め**、プラスチック資源循環を促進し、廃棄物の削減、リサイクル高度化を進める。
- 動静脈連携の取組を通じて、静脈産業・動脈産業※の双方における再生プラスチックの供給・利用の技術力を向上させ、**グローバルな資源循環ビジネスを牽引**する。

※本資料において、再プラ供給側産業を「静脈産業」、再プラ需要側産業を「動脈産業」と呼ぶ。

静脈産業の目指す姿

高度選別技術、コンバウンド技術を向上させ、高品質な再プラを安定的に供給し競争力を強化

動脈産業の目指す姿

再プラ拡大設計を通じて再プラ利用率を向上させ、グローバルな競争力を強化

動静脈連携による再プラ市場構築

【再プラ原料の量の確保】

自動車由来及びその他由来の再生原料の回収・リサイクル率を高める

【再プラの質の確保】

自動車向けに利用可能な再プラの品質を見極め、需給双方からすり合わせを図る

【再プラの価値訴求】

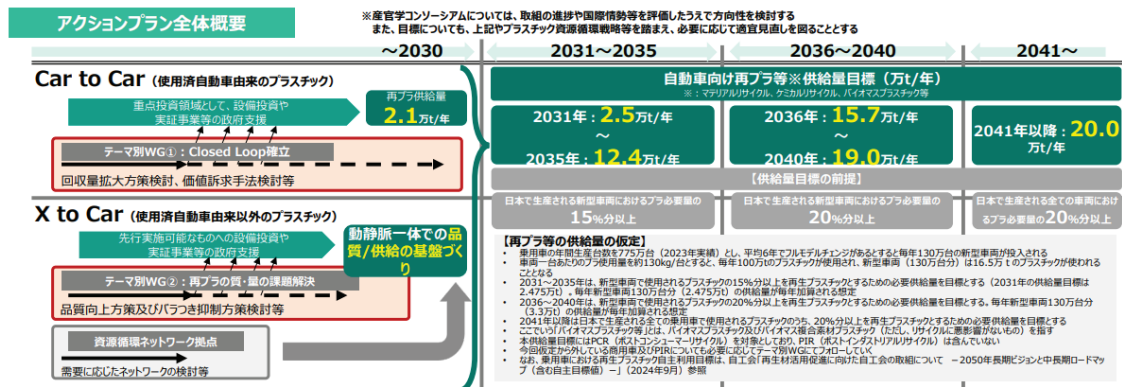
再プラの価値を社会に訴求する

出所：自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム（第2回）資料（令和7年3月17日）

自動車向け再生プラスチック市場構築アクションプラン全体概要



- 「循環経済への移行」に向け、我が国独自の自動車向け再プラ利用拡大を実現するため、これまで連携が十分でなかった自動車産業と資源循環業が一堂に会して、産官学連携コンソーシアムを立ち上げ（2024年11月）、取り組むべき課題についてアクションプランを取りまとめ、「我が国がグローバルな資源循環ビジネスを牽引する」というビジョンを共有。



出所：自動車向け再生プラスチック市場構築のための産官学コンソーシアム（第2回）資料（令和7年3月17日）

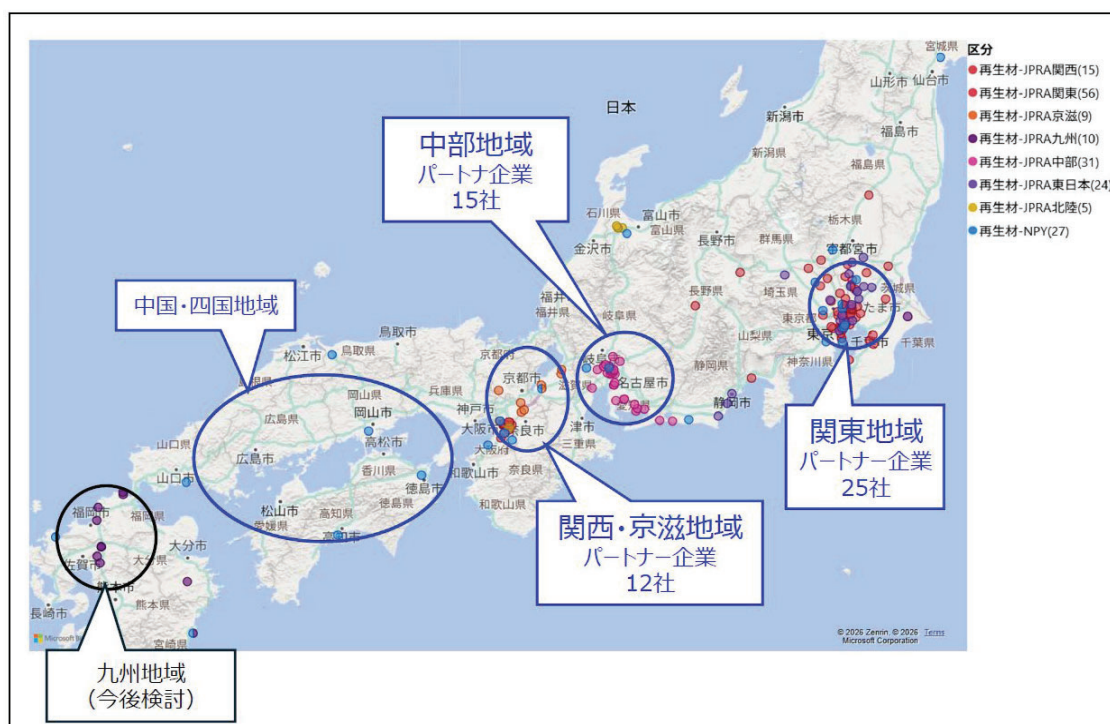
出典：環境省コンソーシアム会議資料より

3. 自動車向け再生プラスチック 安定供給体制の構築

(一般社団法人プラスチック循環利用協会と共に)

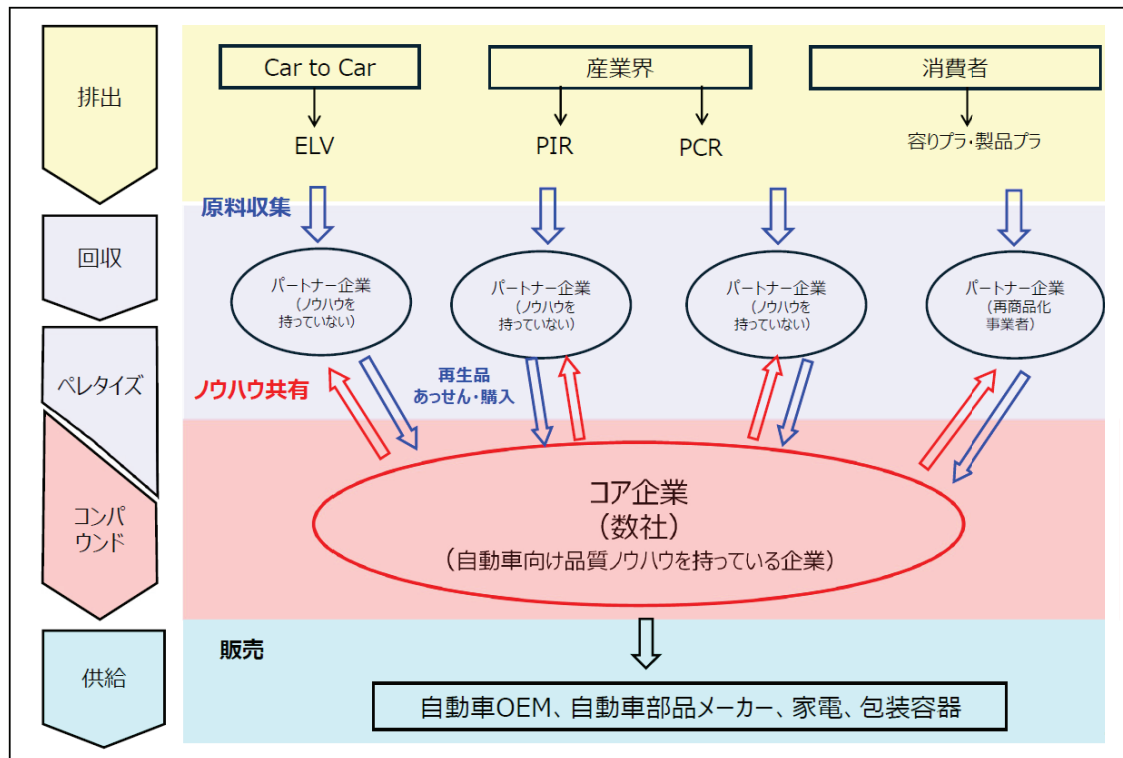
15

<地域毎ネットワーク型集約拠点マップ>



16

<2030年まで：地域毎ネットワーク型集約拠点の構築>



17

2030年以降2040年まで

- 各地域のネットワークに参加する企業で、共同出資会社を設立、あるいは、ネットワークのコアとなる企業に資金を集中させ新たな生産設備等への大規模投資を行い、2040年に向けて生産量を全拠点合計で年間30万トン（再生材とバージン材の混合量）に拡大する。
- 高品質な廃プラ原料の調達効率化の観点から、拠点間での廃プラ原料の相互融通などの連携を進める。
- 新たな由来のプラスチック原料の回収・利用にもチャレンジし、原料調達力を更に引き上げるとともに、原料に応じた高度選別・コンパウンド化等の技術導入・設備投資に努める。
- 国内生産される自動車向けの再生プラスチックの供給にとどまらず、日系自動車企業の海外工場への原料供給も視野に入れて、国際競争力のある集約拠点を目指す。

4. 一般廃棄物からの資源化 『X to Car への取組』

19

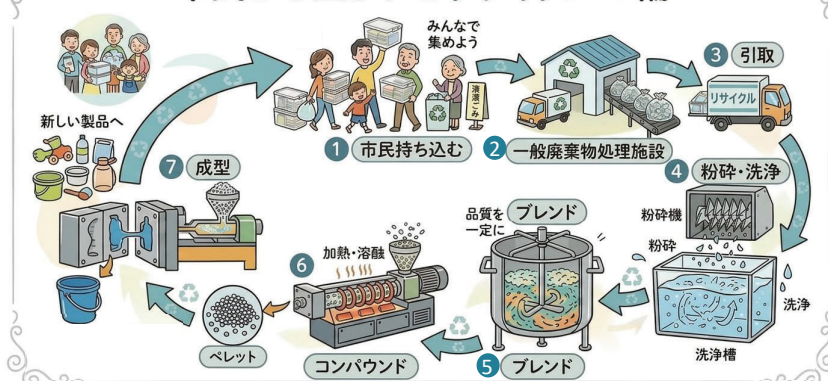
東京都と全日本プラスチックリサイクル工業会との取組

一般廃棄物のうち、リサイクルが進んでいない粗大ごみ中のプラスチック製品にも材料リサイクル適性の高い製品群があると考えられることから、その代表例として P P 樹脂製の衣装ケースについて、その排出実態とリサイクル適性について調査・実証し、プラスチックの資源循環を推進、現在も拡大継続中。

関西圏の市町村と実証事業を推進中

一般廃棄物のごみの持込を受けている一般廃棄物処理施設において、市民から持ち込まれる衣装ケースの P P プラスチックを回収して資源化を行う

市民から生まれるリサイクルの輪



20



資源循環は国家戦略

近江物産は国内循環を基本に自社完結の
回収・商品化を行います



21



ご清聴ありがとうございました



<https://www.ohmi-bussan.co.jp/>

22

